

南信州広域連合第2回広域連合会議 結果報告

日時：令和2年5月18日(月) 15:35～16:28

場所：広域連合事務センター1階大会議室

【出席者】14市町村長、副管理者

〔南信州地域振興局〕丹羽局長

〔飯田建設事務所〕細川所長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔町村会〕岡庭事務局長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務局長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長兼総務課長・伊藤地域医療福祉連携課長

加藤課長補佐兼庶務係長・櫻井課長補佐兼広域振興係長・宇佐美庶務係主事

1 開会…15:35

2 広域連合長あいさつ

新型コロナウイルスについては、まだまだ先が長い、長期戦を覚悟して対策していく。当地域の経済にも大きな影響を与えている。コロナ対策を進め地域の経済にもしっかりと配慮をしていく。リニア・三遠南信時代に向けて非常に大事な時期なので、コロナウイルスを乗り越えて地域一丸となってしっかりと対応していく。

3 協議・報告事項

(1) (株)南信州観光公社の運営状況について(資料No.1)【説明者：(株)南信州観光公社】

・新型コロナウイルスを受けての現在の状況

地元の宿泊関係事業者は、夏までは大きな影響があると考えており、反転攻勢に向けては秋からになるのではないかという見方をしている。

市町村担当者は、道の駅の売り上げは例年の7～8割の減少や、施設の休館、休止、イベントの中止など非常に大きな影響を受けているとのこと。

大手の代理店は、夏の予約においても2割程度の申し込みの状況で、やはり秋以降の反転攻勢を目指している。

地元観光事業者は、融資、給付金、補助金などを活用し、事業の継続を図っている。家賃補助よりも地域の特性上土地代補助のニーズが高い。

旅行業界の専門家は、SARSウイルスのときは通常の経済活動に戻るまで6か月はかかり、今回はまだまだかかるのではないかという見方。

私としては、まずは海外よりも国内、団体から個人へ、自然への回帰志向、免疫力に対する意識の高まりなど、考え方が変わってくるのではと考えている。

観光形式というものが大きく変わってくる。新しい生活様式も踏まえて、プロモーションを展開していく。

農家民泊は現在延期としている。今後の動向をしっかりと見てできることを確実にやっていく。

・2019年度事業報告について

*DMOによる郡市民地域啓発イベント

第16回全国ほんもの体験フォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大により延期。

*旅の目的提案事業

市町村資源活用ツアーは、33本今年度造成した。さらなる造成に向けて市町村観光担当者からヒアリングを行い2020年ツアーは50本超造成した。

天竜峡大橋の旅行企画化とプロモーション支援を実施。

企業研修プログラム開発とプロモーションは、現在根羽村と林業体験プログラムの開発協議中。

ONSEN・ガストロミー推進機構へ参画をした。全日空がバックとなり温泉とその文化を楽しむもので2020年にツアーを計画している。

山岳観光の機運醸成として、山岳文化シンポジウムを開催し、本格的には2020年度から開始したい。

***宿泊・飲食事業**

地産地消に関する研究会を開催。JA、市農業課、市旅館組合等に協力をいただき、地産地消推進システムである「まちの八百屋システム」を作り試行開始。

***人材育成事業**

体験プログラム・インタープリターの養成講座を阿智村、天竜峡、豊丘村で開催。

***二次交通推進事業**

広域連合と連携し、域内2次交通システムの検討を公共交通のシステムの検討とともに行った。その結果、昼神温泉と妻籠宿を結ぶタクシーコース、りんごの里と下栗の里を結ぶタクシーコースを設定、タクシー協会に協力をいただき運賃認可がされた。

***情報発信事業**

旅行会社とマスコミと連携した情報発信と誘客促進事業を行った。

***インバウンド戦略**

商談会などに参加をした。

***広域観光振興事業**

広域連合から原資をいただき事業を行っているもの。市町村観光案内所情報交換会を開催し、今後情報共有をするプラットフォームを作ろうということになった。

・2020年度の事業計画について

***DMOによる郡市民啓発イベント**

延期している第16回全国ほんもの体験フォーラムの開催を目指す。

***旅の目的提案事業**

コロナの後には、観光の状況が大きく変わってくると考えられるので、新たな戦略策定とそれを実行していきたい。ツアー造成100本を目指す。

ONSEN・ガストロミーについては、ガストロミーウォーキングを秋頃開催予定。

山岳観光については、具体的な提案とモニターツアーを考えていく。

***宿泊・飲食事業**

地産地消の関係では、「まちの八百屋システム」をさらに拡充していく。それを支えるための地産地消推進協議会というものを設立する。

***人材育成**

今回のコロナのことも念頭に置いた形での、プログラムや養成講座、SDGsのファシリテーターの養成講座も開催する。

***二次交通推進事業**

スマートモビリティチャレンジ推進協議会に参加をして、広域連合の公共交通計画と連携し次の実証実験が可能かどうかの検討も行っていきたい。

タクシーコース別運賃施行の検証をしていく。

***情報発信事業**

デジタルマーケティングを本格的に始動させる。

メディア戦略もこれまでと同様に進めていく。

***インバウンド戦略**

インバウンドの基盤整備と資源活用に向けた調査を実施する。

＊広域観光振興事業

広域連合から引き継いだ事業について、引き続き具体的に進めていきたい。

- ・「南信州こだわりの旅 50 選」について

今年度最初の 4 回の旅については、コロナの影響により中止。

(主な意見等)

売木村 : 2021 年の事業計画に入れてもらうよう提案はできるのか。どういう段取りでしたら良いか。

観光公社 : 市町村役場の観光担当者で随時ヒアリング等をしているので、その中で提案いただければ良い。

→ 説明内容確認。

(2) 令和 2 年南信州広域連合議会第 1 回臨時会について (資料No.2) 【説明者: 松江事務局次長兼総務課長】

開催日は 5 月 29 日 (金)、付議事件は 4 件、告示及び議会運営会は 5 月 12 日 (火) に行われた。

臨時会当日に議案の追加提案を予定しており、当日にも議会運営委員会を開催予定。

本会議は午後 1 時 30 分からで、本会議終了後全員協議会を開催する。

議場は、新型コロナウイルス感染症予防対策で 3 密状態を回避するため、南信州広域連合事務センター 1 階大会議室とする。

議会日程について、議員辞職許可報告、議席の指定、議会運営委員の選任などがある。

付議する案件は、令和元年度南信州広域連合一般会計補正予算 (第 3 号)、令和元年度南信州広域連合飯田広域消防特別会計補正予算 (第 2 号) の専決処分の承認を求めるもの、監査委員の選任、令和 2 年度南信州広域連合一般会計補正予算 (第 1 号) 案。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策について (資料No.3)

【説明者: 高田事務局長、有賀消防次長兼総務課長】

＊感染予防対策について

- ・会議、イベント等の対応について

3 月以降、会議、イベント等は、原則中止または延期の措置をしている。

介護認定審査会など、どうしても必要な会議については、感染予防対策を徹底した上で開催。

- ・広域連合が所管する施設等の対応について

産業振興と人材育成の拠点 (エス・バード)、桐林リサイクルセンターは 5 月 31 日 (日) まで休館。飯田市の「市有施設における感染拡大予防ガイドライン」を参考に、感染防止対策の対応が整った時点で開館。開館の日はホームページ等で周知する。

エス・バードの飯田工業技術試験研究所の機能は継続、信州大学航空機システム共同研究講座は休講中。

＊各部署単位での危機管理対応について

事務局総務課、地域医療福祉連携課、飯田環境センター、それぞれで危機管理計画を策定し、職場が密にならないようにそれぞれ対応をしている。

＊飯田広域消防の対応について

- ・救急業務について

救急活動における標準予防策を徹底し、吸引処置及び C P A 対応時におけるエアロゾル対策として N95 マスクを着用している。新型コロナ疑い症例は、飯田保健所の指示により対応する。発熱等の事案に対応した場合は臨時消毒を徹底している。

119 番受信時聴取マニュアルを作成し、飯田保健所、飯田市立病院と情報共有をしている。

- ・危機管理対応について

広域消防の職員から感染拡大しないよう徹底する中で、報告体制の徹底や休暇等の取扱要領の策定をしている。

業務継続計画を策定し業務管理を実施している。

- ・会議、イベントへの対応

これからプールの時期を迎えるにあたり救命講習会などがあるが、県の通知等を参考に救命講習会等を再開する。人数の制限や3密回避についてしっかり対策をとっていく。

- ・住民への広報（予防救急）

新型コロナウイルスに対する住民向けの注意喚起を行う。熱中症の症状も新型コロナウイルスと類似する部分があるので、それも含めて注意喚起の広報を行っていく。

- ・感染防止資器材について、今後不足が危惧される資器材があるが、多方面から調達をし救急対応が滞りなくできるようにしていく。

- *旧工業技術センターに地域外来・検査センターを設置することについて

- ・新型コロナウイルス感染症において、いち早く検査することにより住民の不安を払拭し感染者を発見して隔離すること、当地域の感染拡大を防ぐこと、検査体制を拡充することを目的として、県からの委託を受けて飯田市として地域外来・検査センターを設置し、その運営について包括医療協議会に委託をするというもの。

- ・設置場所は、旧工業技術センター。旧工業技術センターは、広域連合所有のため5月1日付で飯田市と使用貸借契約を締結し無償貸与している。

- *今後の新型コロナウイルス感染症への対応について

国は5月14日、長野県を含む39県の緊急事態宣言を解除、15日には長野県としての今後の対応が発表された。緊急事態宣言が解除された地域においては、新しい生活様式の定着を推進しつつ、社会経済活動の再開と感染防止対策の両立を図っていくことが求められる。それぞれの市町村で国の交付金の対応等していただいているが、ぜひ情報共有をしていただき地域として方向性をそろえる必要があれば、そういったものも検討していく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(4) 高校改革～夢に挑戦する学び～再編・整備計画【一次】(案)について(資料No.4)

【説明者：加藤課長補佐兼庶務係長】

県教委が策定した「学びの改革 基本構想」をもとに、当地域でも南信州地域の高校の将来像を考える協議会を立ち上げ、昨年度半年の期間をかけ議論した。その議論内容をまとめた「意見・提案書」を今年の1月に県教育長あてに提出した。これらの意見を踏まえこの3月に県教委は県の「再編・整備計画【一次】(案)」を策定した。

2020年1月現在、4地区(岳北、佐久、上伊那、南信州通学区)の協議会からの意見・提案を踏まえて策定されている。

全県の「再編・整備計画」は令和3年を目途に策定される予定。今回の【一次】(案)はその先駆けとして策定されたもの。

県教委から連絡があり、新型コロナウイルスの関係は高校にも影響を及ぼしており、現在高校は休校状態でなかなか検討が進んでいない状況とのこと。それから、飯田OIDE長姫高校の多部制・単位制機能の導入について、地域への説明会や県議会への説明も含めて全てストップしている。こういった状況をご理解いただきたいとのこと。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(5) 飯田広域消防本部から(資料No.5)【説明者：有賀消防次長兼総務課長】

- *熱中症疑いによる救急搬送の状況について

熱中症疑いによる救急搬送について5月から調査を開始し、5月13日現在4人搬送している。

4人は全員80歳代で軽症と中等症。

＊熱中症予防に係る広報活動の取組みについて

外出自粛による在宅者の増加が見込まれることから、特に屋内における熱中症予防について例年よりも早期に広報活動に取り組む。

マスクの着用により、のどの渇きがわかりづらいこともあるので、こまめな水分補給が大事だと考えている。これらを踏まえて様々な広報活動に取り組んでいく。

7月には熱中症予防強化月間として国が設定しているものだが、その期間中店舗等での熱中症予防広報なども行う。

コロナ禍での熱中症予防では、新型コロナウイルス感染症と熱中症の初期症状は似ており、多数の熱中症傷病者が発生すると新型コロナウイルス感染症患者との見分けに時間がかかるということも想定される。これは救急搬送先の病院選定に時間がかかってしまうことや、多数の患者対応のため医療態勢がさらにひっ迫する恐れが指摘されている。今年は例年以上に暑さ対策をしっかりと、熱中症を予防するということが必要。

＊火災発生状況について

5月17日現在で火災は42件、昨年比較ではマイナス14件となっている。5月中はたき火火災を中心に予防広報を行ってきた。これからは、住宅火災予防対策と住宅用火災警報器の設置推進も合わせて広報活動を行っていく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

＊令和2年度地域発元気づくり支援金について

39事業が内定した。新型コロナウイルスの影響もあり、申請件数は例年より20件程度少ない。

2次募集は、新型コロナウイルスの状況を踏まえて見合わせる事となった。

＊「児童・生徒の皆さんに手洗い励行チラシを配布します。」について

新型コロナ感染防止対策のため、児童・生徒向けの手洗いを呼びかけるチラシを作成した。5月7日から学校を通じて各家庭に配布している。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし。

(3) 飯田保健福祉事務所

→ 報告事項なし。

5 当面の日程について

5月29日（金）13：30 南信州広域連合議会第1回臨時会、全員協議会

6 閉会…16：28